

七女想いがガイド

#2

皆さんご存知でしょうか。smtは各階を貫くガラスのチューブが特徴的な建物ですが、あのチューブのてっぺんには「太陽光集光装置」という太陽光を追いかけるミラーみたいなものがついていて、それで下の階までそれなりに明るいのです。と、ここまではホントのまめ知識。

話は変わりますが、皆さんは震災の時、食べるものに困りませんでしたか？私はたまたま買いためていた乾麺があったのでそれで食いつなぎましたが・・・リスクは分散せなないといけない、ということを実感しました。そう、これからは公共施設といえども単一の機能にとどまるのではなく、生産機能を持つべきだと思っただけです。

と、ここで話は最初に戻ります。昼は「集光装置」、夜はライトアップの照明で、これをただ明かり取りに使うのだけではないです。これを栽培するのです。smt地下野菜工場で作られた野菜は、通常は1階のカフェで食材として提供されたりしながら、緊急時は炊き出しの材料になります。自分が住んでる街中でも、多少でも食料なんかの生産が行われるって考えたら、少しは安心して暮らせるんじゃないでしょうか？

(モキチ)

Dr. よしひろ 化学実験室

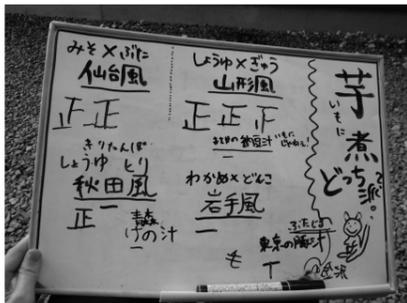
▶次回実験予告◀

今回の Dr. よしひろ化学実験室は、

「万能実験」

しかし、Dr. よしひろ、実験用品の購入に必要なカードの入った財布を、電車に忘れる？!

早くも「万能」じゃない予感。実験の行く先は、次回で。



落ちこんだりもしたけれど、わたしはげんきです。今年も、芋煮会へ行ってきた。仙台生まれ仙台育ちの芋煮会です。最近福島の宅急便を見てはゆんゆんし、のネイティブペンダイである筆者には見慣れた光景だが、遠方からやってきた友人たちにはかなり新鮮な光景らしい。一度体験すれば彼らも芋煮会ですげどねー(腐りかけ完熟バナナが最適)の秋なんて考えられなくなるだろう。

芋煮会の後、悩ましいのが全身に広がるスモーク豚汁と芋煮の違いはどこにあるのだろう。最も多かつた意見は「芋煮」が入ってれば「芋煮」であり、里芋が入ってない、または異なる芋(シヤガイモ等)が入ってれば「豚汁」。また、屋外で食べれば「芋煮」であり、屋内で食べれば「豚汁」という意見も。この他にも仙台味噌を使用しているか、塩味か、醤油味か、などいろいろある。第二回は、早くも最大の見せ場を終えたこのコーナーは見えないが、最終的には自分が芋煮と信じるものが、真の芋煮なのだろう。私はそんな芋煮が好きだ。

(芋煮長)



第二回

「FIMONI」

ラジオ

第2回 ラジオ送信機は持っているか?

誰しも一度は憧れる職業としてラジオ番組の司会者、つまり、ラジオDJが挙げられるのではないだろうか。1983年頃からその職業に憧れる若者達から爆発的なブームとなったのがミニFMと呼ばれるものだった。ミニFMは微弱電波であれば免許が無くても放送出来るラジオ局の事である。この気軽さから、ピーク時は全国で1000局ほどブームが広がったと言われている。しかし、サービスエリアが狭い事から当然ハンドエリアは、それでも人気のあるステーションへは、わざわざ足を運んで聴きに行く、だから、笑えたり、もしくは、とても感動的な場面が出てきたりするかも。みんなで物を作るってそういう過程がしばしば出てくるもの。それを見せながらやってみたら面白いんじゃない？それが、もうひとつの視点らしい。

ここまでわかると、制活でやっていることは、結構論理的に説明がつく。でも説明されたってなんだかわからないですすね。わたしたちがやっていることは、一見、すごくばかばかしいです。というより、ばかばかしいことだらけです。でも大人になってこんなふう遊ぶことって、なかなかないんじゃないでしょうか。むしろ大人から遊べるばかばかさが、「中崎透」にはつまります。作り笑いじゃなくて、社交辞令じゃなくて、本当にばかばかしいことを発見しながら、みんなが笑うこと。飲んだり食べたりすることも含めて、今いる自分たちをちょっと外から見ていること。そんなことをしています。もしかしたら、中身は空っぽかもしれませんが、でも、みんなが笑って食べたパジャルスパゲッティは絶品でした。これからも、こんなちよつとした楽しい時間が続くといいですね!

(ただ)

制活編集支援室では、発電実験が行われ、収穫祭も行われた。中崎さん自身のプロジェクトとしては、福島での大風呂敷プロジェクトが行われた。そう、あの河北新報にも載った、あのプロジェクトFUKUSHIMA!の風呂敷は、中崎さんたちの手で、縫い合わされたのです。

そんなわけで、一部の人は、中崎さんがどんな人が浸透してきたのではないのでしょうか。「2週間6千平方メートルの布を縫い合わせる作業を段取り、運ぶことができる人」という人はなかなかいないでしょう。そんな人が仙台に呼ばれて何をしているのでしょうか。

中崎さんの興味は、大きく分けて二つにあるようです。ひとつは制活の説明文でも取り上げられている「視点」の問題。どんな平坦な日常も、それを見る目が変わったら、とつても面白くなるんだよ!というメッセージ。それは、これまでの記録を見てもわかるかと思えます。発電したり、メディアテークで植物を栽培したり、わたしたちの生活に新たな視点がたくさん盛り込まれています。もうひとつは、わたしたちが何かを作っている過程は、誰かにとつて意味のある活動になったり、役に立ったり、もしかしたら、くだらなかつた

制活とは...

市民参加型の長期ワークショッププログラムです。講師となるゲストアーティストは水戸を拠点として活動している中崎透さん。日常を素材にして、ちょっと違った視点が見えてくる作品を作るアーティストです。私たちの日常の中には様々な制作活動や編集行為が潜んでいます。ちょっとした本棚や食器棚の並べ方だったり、心地よい椅子の高さの選び方、有意義な一日を過ごすためのスケジュール作りだったり。そんななんでもないことを、一緒に話して、集めて、歩いて、手を動かしてみたりしませんか?月1ペースでのラジオ放送と、手作りの新聞発行を目標に年間を通した活動を行います。

今後の予定

11月20日(日)
16時から17時半

「活動説明会&進捗報告会」

あためて!

BBBBBBBB

「ただただ思ふ」

この制活編集支援室が始まった6月はちょうど新緑の季節、smt前の定禅寺通ではケヤキ並木が緑のトンネルをつくっていた頃ですが、今の仙台はというと、紅葉がはじまり並木はすっかり赤黄色、秋も深まってきました。さて、制活新聞第2号(通算3号目)は、制活メンバーの連載のみで構成し、コラムあり、小説あり、インタビューあり、散文あり、妄想ありの個性がギッシリ、実りの秋、まさに秋の大収穫号となっています。そういえば、第1号でも記事になっていたsmt農園の野菜たちは、その後しっかりと実をつけて、8月末に収穫祭を行いました。ゴーヤやパジャル、赤丸はつかなどをパスタとサラダに調理、みんなでおいしくいただきました。(編集長)